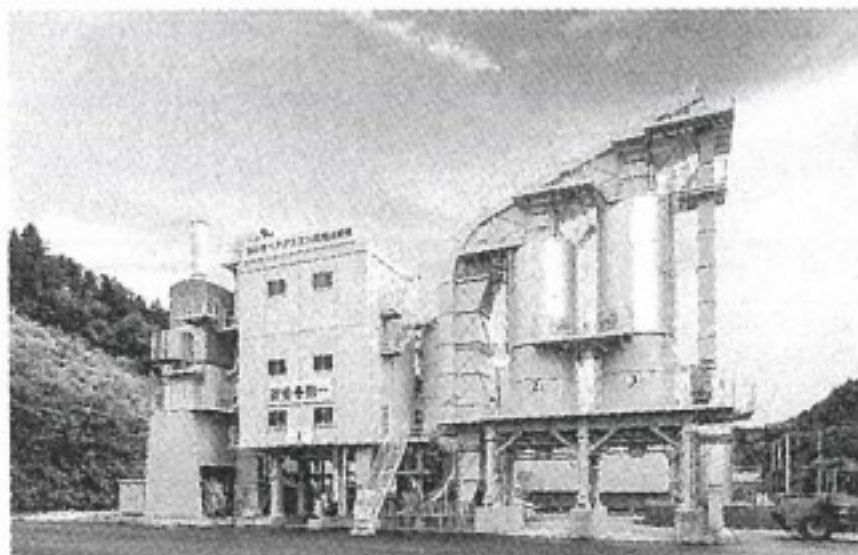


リサイクル合材の製造開始

アスファルトプラントの火入れ式

完成したアスファルトプラント



点火ボタンを押す代表者ら



役専務執行役員支店長)が、二戸市に建設を進めてきたアスファルトプラントが完成した。アスファルト合材の製造能力強化や、リサイクル合材の製造を目的とした施設で、23日に火入れ式が開かれた。

式典には関係者約60人が出席。神事に続いて、代表者8人が点火ボタンを押し、プラントが稼働した。あい

さつした鹿島道路の吉田社長は「これまで以上の力を発揮し、国、NEXC O東日本、県の発注工事はもちろん、災害時にも迅速かつ良質なアスファルト合材を安定供給し、カシオペア連邦地区の発展に貢献したい」と語った。

鹿島道路は1971年に

一戸、二戸地区の国道4号道路整備に伴い、二戸市福田川袋11地内に二戸合材製造所を建設。2005年に同社、中館建設、フクタの3社で北岩手アスコンJVを発足し事業を進めてきた。

今回完成したプラント

は、既存施設の老朽化に加え、リサイクル事業に参入するため新たに整備したものの。新設に伴いJV名をカシオペアアスコンJVに変更。建設地の二戸市と、隣の軽米町、九戸村、一戸町、旧浄法寺町を結ぶとカシオペア座の形となるため、地元ではカシオペア連邦と自称していることから、今後の事業展開によりさらに地域貢献したいとの思いを込めた。

建設地は、八戸自動車道浄法寺ICから約5kmに位置する二戸市福田中屋敷

3の1地内の敷地9550平方m。アスファルト合材を製造するアスファルトプラント型と、廃材を再利用し合材を製造するリサイクルユニット型を備える。施設全体の製造能力は96t/時。二戸合材製造所から1.6倍に増強した。クラッシュャープラントの破碎能力は25〜40t/時。合材を貯蔵するサイロは80t、100tの2基を設置。大口の出荷に対応可能な仕様となる。工事は昨年9月に着工した。稼働開始は7月1日を予定している。

アスファルト廃材を受け入れる中間処理施設は秋ごろに完成予定。その後、温度の上昇を抑制しながらプラントを稼働させる設備を導入し、二酸化炭素の排出量削減に取り組むなど、大規模ながら環境に優しい施設を目指す。